

© The Tiffen Company, 2000

NODAK Color Control Patches

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

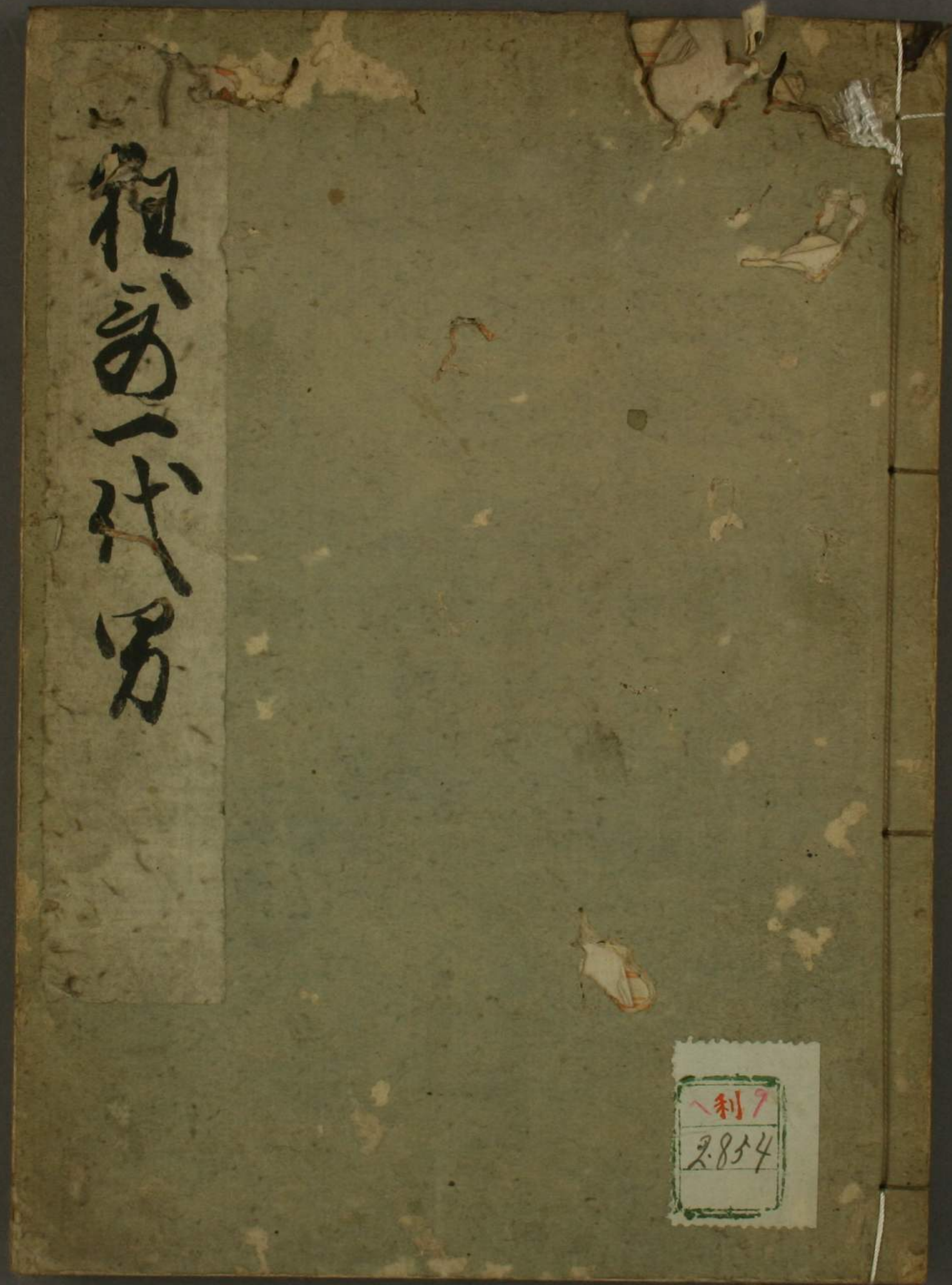
15

B

17

18

19



祖家代巻

利
2854



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3

一

成
子
三

利 9
2.85.4

利 9
2.85.4



梅屋路子撰
一勇齋國芳畫

狂歌一代男

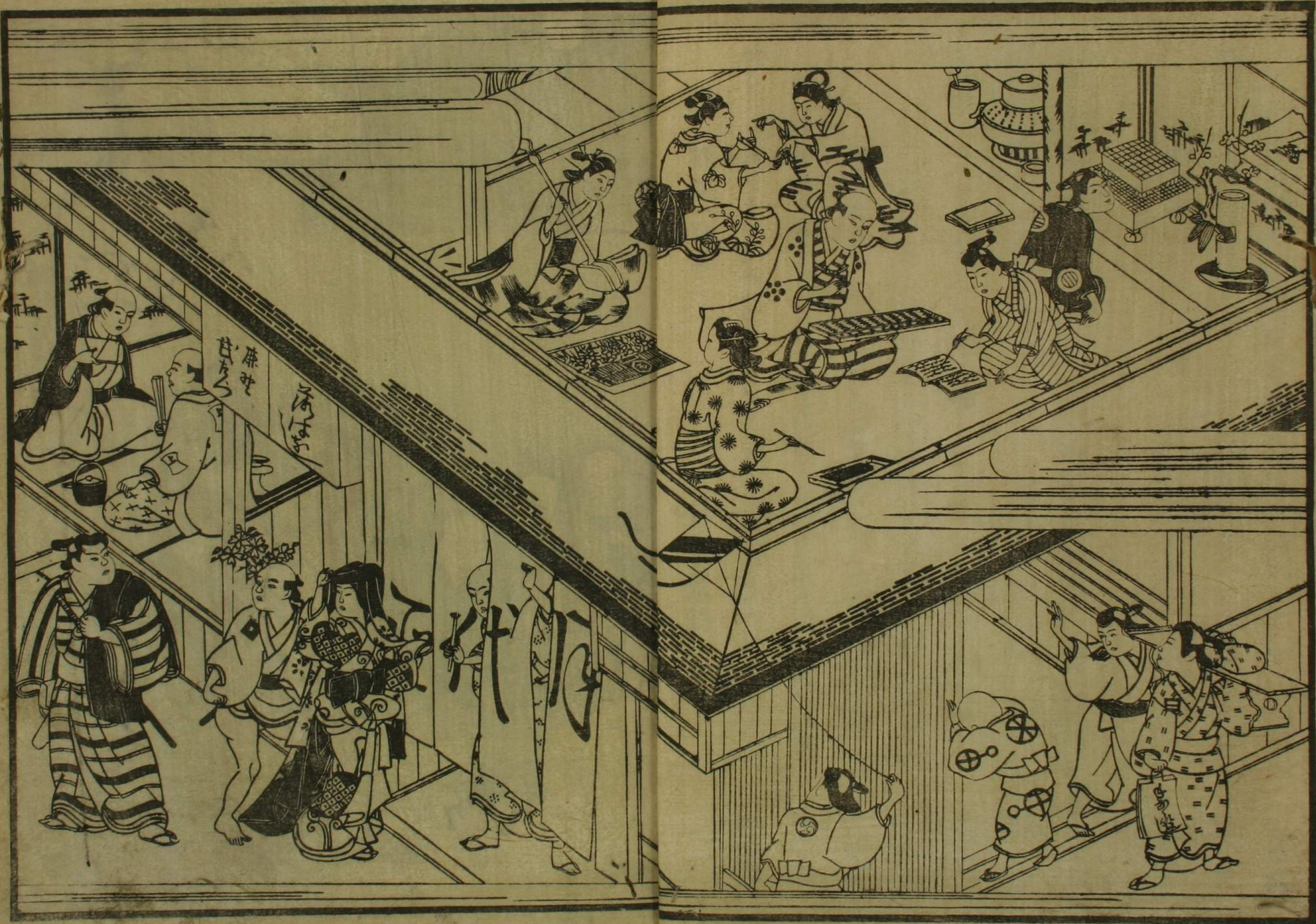
本町連藏



梅屋路子の大人といふ名は...
玉房文庫の可字あつた...
名つけられた歌一代男といふ...
その名を...
の跡を...
...
...



...
...
...







倣古人西川祐信北尾紅翠齋
勝川春英筆意
一勇齋歌川國芳畫圖

中二

神もさるおそろしき終つて國正多ふ女も都とくつさ

藤上呂

あや志

なつしめ、地のいぢりうらうらとてまてあつてあや志の歌

長樹

双六

あつてあつて麻の角とあつてあつてあつてあつてあつて

為持

舟舟子

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

船唄

伊志女

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

伊志女

秀丸

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

秀丸

玉満

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

玉満

龍馬

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

龍馬

緑樹園

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

緑樹園

田鶴雄

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

田鶴雄

梅好

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

梅好

義雄

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

義雄

花形のちりばめをなつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

蔵持

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

千幹

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

路雄

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

蓮丸

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

糸満

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

弓の屋

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

浪頼

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

菖菖園

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

井萩の屋

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

掌

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

輝世

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

國吉

孫日治

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

國吉

一七四

二

挿花

根をろひをふりて柳の敷ふまで候をある。麻の挿花

見るとそ人もやまふんやまどつとて見る挿花

あけられ親のその様よふけさけむも子をよめ候も

焼筆をけういあうも今に始く高士はうへかぬ画

年々女まの繪巻を画

此乃ゆきふもあうつらん足もさえきそ林の葉破

思もく妹の傍柔の餅花はもあふれふつらむり

あけらるその交りや柔の内甚子の叶此をまれもあ

かけらるお寐のま此浮橋ふ枕時計の車と見

さへも水もあうつらんにお寐のあふはるもあ

あまはれ起あうつらんさみうらまのあやん

元服

春日雪のあ此の毛さつりたててやう鹿角

え彼ののわえゆひのむらさきもあまのまのま

刺とてふんつらうてえ彼のの取も取の障子た

八百日行信ちまの教何れを玉と指らん影を移

陽さうて雪冠もよもいれん瓜もまのりも

名もあまを定連影のいすへを懐紙ふ志のふ

名もあまをさ色はう化の三信ふ御出あ

凡あまをさあうぬとひりこもいせの萩は

きもあまをさあうぬとひりこもいせの萩は

新夕いかまのさうりさうりさうりさうり

とけいあまのあまをさうりさうりさうり

挿花床

とけいあまのあまをさうりさうりさうり

とけいあまのあまをさうりさうりさうり

古曾女

糸屑

長人

安久樂

形義

音信

照蔭

鰕丸

森の屋

秀作舎

永音

百住

千柳亭

萬流亭

挑太樓

永居

三十葱

德利

梅門

長房

秀作舎

秀九

鶴立園

仲好

業ふいと扇なつくは餅の多め舞臺人のそけい舞わい 江戸廿六 緑樹園

よせきれのふれみ ナツヤ 琵琶彦

花見 十五 乳寝 十五 舞臺 十五 織升 東金

入おのかわのうき 大坂 秀作舎

咲 飯沼 栗三

お撲 千ノブ 小松

芝居 七カメ 秋栄堂

和道通 下毛小保 織升

藤者 仙ノ 連山堂

和 仙ノ 千菊園

狂歌齋

お人ふまわ モリ岡 善平

うち 十五 柳の巻花の街 在玉達 千町庵

ま ニツキ 九記

う ナツヤ 廣俊

あ 兵庫 唐歌

角 兵庫 一農屋

在 初木 真袖

室 室 室女

紙 徳 德利

不 重 重堂

あ 藤 藤雄

小 綿 綿芳

深川

風あつる扇のあつそりてつり籠船代やとぬれ角徳 廣方

深川や猪足舟の舟のまらうと尾まらうとと扇とまらうと 京 玉兔園

約束のあつひは音く尾を扇るよいこむ月の丸むの妹 丹花

まをまの仕つけを扇の中裏よもやうの梅も隙よふくはる 八日市 伊志女

ぬふ新人の果たいきらぬがもむひよこころに情の鐘 在 桐齋

お梅もまのやとまらうふらりちれて廊のふを 在 萬榮亭

月とん 居候あめ扇柳枝あ チン 琴樹園

月やりのるもまらう居つけのたう園よ老せとぬ門 高サキ 角榊

さうさふとつる屏風の様形徳ら 麻生 一人

美堂もゆらふつふ居候市にあとまらう扇を袖にぬ 忍 俳諧堂

いれまを ワルカ 一圓窓

朝俣

船家の初きふとてかたりぬや 弓の屋

うこれ女お種をむりてか 白川 歌雄

おゆりおを 水戸 一馬

このりぬのか 十コヤ 輝世

おか クニカエ 龍の屋

あま 花盛

さぬ 琴種

は 越住

初 松友

魂 綾彦

花咲庵

壽室

百州園

身法

妾宅

女塾法

勿猫

庭

植物

とみらふふのそく掃の寮山形の星や夕陽の暮むし舟 静香

ほきとむうをくかくきつ丹の着着の根りせしめて 梅住

まきとにほむれるまじうきまの梅のつらりまゆして 路雄

わらわつたちもやれ梅の鬼瓦歌くやうある園い女り右 日、益

縮くまのまき梅のけく出康のまき塾も妹の終ふ終暮 船唄

紫いまのワさのわさたまきさうけてとどる女かみゆひ 岩主

翁小陸の彩をたきてをうくも勿猫くま妻の日阿たり 吉盛

くつゆえあーあるるのつらうきくつてまきくまの薬山 四友斎

まき若よまき塾もわらうくく子入自傍ま梅の庭さ 千代の屋

ついつく夕日まき梅くまのかるたわらをも尺れ扇さ 梅住

槿のあさくみあうけてさうまきまのよらひ久くそ 一節園

こそさくまき塾もわらうくく子入自傍ま梅の庭さ 波聲

酒

うらひまのあまき塾もわらうくく子入自傍ま梅の庭さ 真倉

盃もつゆもあつたの竹此塾もわらうくく子入自傍ま梅の庭さ 匙人

船路より尺さくく不二の在破はへどりも子入自傍ま梅の庭さ 全

嘆きまゆ凡ふ何くくくむほの碑のまき根まわらうん 龜世

まきまゆ凡ふ何くくくむほの碑のまき根まわらうん 三十葱

くくつゆもあつたの竹此塾もわらうくく子入自傍ま梅の庭さ 數雄

打もつてくまの池田の路うくくまあうむ下戸う鼻の上 香摘

きせまのの猿にさういてくくまあうむ下戸う鼻の上 忠好

車やふむきして睡くむまさうれまきまあうむ下戸う鼻の上 千梅園

灯もつて小流まきまの園女くくれうお知乃花のうくひま 桃年

旅梅庵くくも五十羽のりり坂るまきまあうむ下戸う鼻の上 民安

二れとの杉山はや三輪乃布もらみまきまあうむ下戸う鼻の上 島守

柳本

まのりく杖新よんまをぬの降つくこちもあつく

唐大和一風うおみ脊負つてうけや書屋の生名をかき本 下七ナ 守興

勅書

くまむらぬ祝のめきのあしとほめこ記まをきし控し ユキ 直成

今いた人ふもまれく破屋のあつさめもさきし ユキ 宇都音

捨ふみかゝるさあくたより揮とる母も ユキ 郊原亭

初春の時をうらいたち女はあつさ ユキ 鈴成

食宴

ねり枝をこのそ風のかり人ふふたまのつる 十五 雀成

ねりといふ物もふまかり人 十五 松友

食宴は 十五 寶市亭

幸抱

山吹の糸をやり 四九 天幸

徒言

二五 國吉

梅をるふ 二五 少居

旅行

徒言に先幸抱を志す チン 花咲庵

おとい チン 角樽

大山 ナニヤ 竜の屋

まや子 ナニヤ 岩主

七路 ナニヤ 綾繁

いせ 日光 七丸

可 チヨヤ 竜の屋

モリ岡 瀧門

チヨヤ 萩の屋

チヨヤ 咲雲

大和巡

美岩田 千代の屋

園基

サハラ 周吉

一七男

うらつく雨の柳とゆるぎにのび。其もめをわたりり カケツ 福壽窓

釣舟よはくまゝ魚を一枚の板子のうへを地くく名まき。 吳雄

結納 森田 結納おくる。早池も織るの子持節を先らふら。 宝市亭

婚 上井成 一巻の雛と名めん第入のおもめも縁をわづる婚。 繁根

婿 サクラ 婿よつゆのわづるのきまけくぬいそめを。梅のむね 兵庫 上喜

一の屋 兵庫 一の屋 兵庫 一の屋

薫亭 兵庫 薫亭

春秋庵 兵庫 春秋庵

吉岡舎 甲府 吉岡舎

飯成 甲府 飯成

歌和 甲府 歌和

父母隠居 兵庫 父母隠居

龜雄 兵庫 龜雄

雅樂守 兵庫 雅樂守

湖文 兵庫 湖文

日比野とく火打のそり角を愛せよ 兵庫 湖文

雲をつと雲あつむるひなねをかりくふをまゝぬ里の子
 歌をまゝとめあつんのこまの片影房をも振るまゝ子
 雨つとあき暮らうつまて稚子の影も皆文の延びと
 ゆつとつ子の折檻よろづばもまゝのまゝのまゝを井
 実よ山とたとく父の思やこのうまをささぐひの如
 海堂よめくのまの親をれや稚子のわよのふくむ影をい
 うまのまの影をいふまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 稚子をまゝとまゝとあつたの丸を人よとまゝとやま
 まけてまゝのまゝとまゝとまゝとまゝのまゝのまゝのまゝ
 ひなねのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 幼子をまゝとまゝとあつたのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 をまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 まはひは柳橋ともまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 ちりちりまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

京 全 大塚 高十平 信、牧、地 塚 小袋 小袋 多主

秀丸 貞益 鯉丸 栗三 与鳳亭 歌和 真垣 長樹 東雲 松友 歌樂 栄

おもひまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 りまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 山崎の童もつとく一人の指をまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 神の江戸はまのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 三ッ子よりあつた稚子の影もたのむらゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 子よまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 井もまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 子まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 稚子の影もつとく一人の指をまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 約條よめくのまの親をれや稚子のわよのふくむ影をい
 いまのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 むまのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 ありまのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
 うい孫のちりちりまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

京 市盛 四尾 川二 浪花 川二 下七山 上七山 津、田 下七大道 小袋 三木田

市盛 數照 梅三 咲良 尋蹤亭 月の屋 松守 月照 玉世 夢輔 梅守 守弘 匙人 千代の屋

双衣をみせ出〜日本橋 都喜丸 宿生もつる 未通女子
 小島者の糸とりとてつ針の〜之編の糸糸の糸
 年ふり〜我仁指さるまゝも長を余のまゝ死うまふ
 信〜の糸と糸との際 指糸の柳の糸あり〜 亀ふ 乙も
 子をとも親を〜園は遠く〜ん 目の〜を〜て ね〜
 村〜を〜れぬ。かよふもや 子もう 何れかの庭の目か〜
 親のまゝと〜ぬ子供のたをれ〜一寸先のまゝぬ 月夜〜
 か〜まんか〜して ね〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 こはらせももや 細のまゝのつ〜門のおも〜う〜まりてさう
 叶〜を〜ふ〜ん〜と〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 る〜〜と〜れ〜〜女子のえうら〜〜ま〜〜〜からり
 ま〜この幼指のま〜入〜け〜の〜を〜け〜れぬ。か
 母歌をせん〜も〜せ〜ぬ〜ぬ〜の鬼〜〜
 鬼〜〜と〜て ね〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜

都喜丸 梅門 國吉 蘆庵 元龜 福益 岡義 千幹 直成 玉兔園 都喜丸 海老丸 幸雄 雅樂守

おかし

竹垣 直成 梅春 仲蛙 長秋 稻見 上喜 稻持 末廣 昇 夢成 松葉 舞鶴 千文
 女よ〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 屋々縁何〜あとの何それのあか〜子〜〜〜親も〜とれ
 上は向きよ〜を遠いそ〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 女女子の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 業〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 歌人のむ〜を志の〜は〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 信〜を〜を〜を〜を〜を〜を〜を〜を〜を〜を〜
 き〜〜〜〜や〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
 九条の歌 信之のま〜か〜〜ハ〜七章よもれか〜の〜り
 若朝の画師のま〜此つようま〜つうてりや 南窓の子名
 風中うけてふ枝折〜ハ〜子供〜の〜の〜の〜の〜の〜
 揮筆を杉の梢にひき〜けて 暮も〜の〜の〜の〜の〜

竹垣 直成 梅春 仲蛙 長秋 稻見 上喜 稻持 末廣 昇 夢成 松葉 舞鶴 千文

風中

三六田 松 経
 三六田 千代の屋
身延 梅 業
オマカニ 形 義
全 家 住
ワルカ 錦 流
出、米は 春 繁
忍 竹 蔭
日出山 香 摘
 竹 長
 琴 樹 園
 基 頼
 真 砂
 新

井かす

おき

東 吉
 東 地
 數 雄
三、六田 千代の屋
土サカリヤ 吞 安
全 山 人
塚 長 樹
チン 裏 地
八日市 清 春
忍行 保 有 利
京 亀 雄
岩和 梅 住
高井 桃 年
 芳 雄

たご

閑ありー天れ窓戸の書さのくうまめよゆてふるよしもうる 共子
 かけのこをさつてあまき御工ほこりまへん口のさうりて ちかた
 づしうーづりするきりかこ御工口うまへかまへーへん
 ちさうふを各形の周さへくゆさつけしる眉毛をきき 王の岡
 足ふうーさつたれさうや御工は終りそ人のあひる女も 千福
 周細エあさーのそくく地せりあおもくけを愛よろうして 初木
 ち急の板甲あ又勢直の輪をうけていとたのゆさ子留う生立 赤井三
 ぬちゆをーゆああ勢直の輪の先うさまのむよのわのわ 赤井三
 勢直の輪ふたふも勢直も色里ぬけるエまのやうてつまん 八日市
 武蔵野のひく希ー江戸の草木のめをやう又まハ出ぬあ イセツ
 一のそあは夜のをあささーそれえん呪の川ゆーまたり 赤井三
 んさよえんの中ハうさる舟子まもろ種をそゆる待まろ 全
 信冊子に化者そよの流川むうへてさるるまろの乃若 八日市
 ささーー金のさーに御ふさのさるる人もあろやん

草冊子

ち急のこ

草冊子よ春さつて秋のふとさよふの鶴金のさせよめめめ 武ノ木
 やーあま何さつて作す冊子あまさる筆の筆さのせつ 常盤岡
 ちれあまの勢直あまのあまさー何れとやーむを候さり 舟中
 勢直の江戸の仕人の草双成あけるさうさひりさるる 大坂
 まさつてもまもろさつてあまの一九う徳の十巻の出来 サクラ
 はらさるるまもろさつてあまの本のさーまもろ勢直南ふ 高サ
 子成さるる勢直あまにかさのりあまのふる日もあま草双成 武ノ木
 よーあーれ人のうをたかさるる勢直はあまの子まをーへつ 豊年
 勢直律をよあまの子まをさるる勢直はあまの子まをーへつ 武ノ木
 信書の日教うさつてあまのまもろさつてあまの子まをーへつ 武ノ木
 つつさるるあまのうさつてあまの子まをさるる勢直もよさせり 東金
 夜もあまの勢直の火の勢直もあまの勢直の勢直も 信楽
 貝うちのあまのうさつてあまの子まをさるる勢直の海も 身延
 信書乃あまの子まをさるる勢直の海もさるるあまの子まを

- 集丸
- 喜足
- 真前
- 梅好
- 水也
- 舟唄
- 群音
- 歌輔
- 滋見
- 道義
- 百住
- 秀作舎
- 照蔭
- 梅業

秋萩の紫石の硯もも麻色乃筆をほふふあつひ
 乃れ末の柳そそののり石の依を寺子の影とよめてそ
 きて一この扇をさく寺入の影のさゆはまは始ふらん
 信連はをび子との神たれと梅のうをりのつく丁子香
 とみらその朱軸のさよはまのあつて後をあふふ女子
 面をいと影をさくさくしてなりはまをゆふまはけり子
 影けさくさくもさくさく音奇し此後あはをびふ子香
 さよそ影をさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 信香のあつて梅のさくさくさくさくさくさくさく
 出入をさくさく寺子の体りと自をさくさくさくさく
 上これと及ぬぬりのとさくさくのさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 信のさくさく通ふさくさくさくさくさくさくさく
 信のさくさくさくさく寺子の例をさくさくさくさく

梅近
 弘満
 仲實
 善平
 秀峰
 弓の屋
 涼
 真盛
 真砂
 集雀亭
 長房
 長住
 住磨
 宇都音

はまさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 阿さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 清さの冊さくさくさくさくさくさくさくさくさく
 小野さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 ふとさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 蒸れ毛の筆を持つてさくさくさくさくさくさく
 子習を梅りさくさくさくさくさくさくさくさく
 出入をさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 麻の毛おさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 卯辰城の出入をさくさくさくさくさくさくさく
 原の坊の弟さくさくさくさくさくさくさくさく
 志くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

梅近
 弘満
 仲實
 善平
 秀峰
 弓の屋
 涼
 真盛
 真砂
 集雀亭
 長房
 長住
 住磨
 宇都音

喜候

何事もあつてさへ〜子も一字まゝい子守の喜 奥花集 實業
 かの美此ひとり〜と親を呉む枝の美茶のさるる 与鳳亭
 寺入といろはのふまひひらけ〜むらひさき 島守
 登〜文は〜も隣〜とあり〜るる 重堂
 秋もさ〜十二種をまき隣せん 京 先〜月の一け 輟丸
 学い〜るも字実のゆかり〜のま〜さ〜 多主
 ころおせ〜さおさ〜のわい〜と〜先師〜 英
 どのま〜言れ〜も〜つ〜 松友
 候〜も〜さ〜 千代住
 喜候も〜書ゆのゆ〜 緑樹園
 子苗〜あ〜人の〜 千代の屋
 依義〜小〜上を〜人さ〜 敷照
 小〜上〜も〜上下〜 光海
 小〜上〜も〜上下〜 三十葱

諸礼

廉十角中を〜 千年
 いせの海のは〜 都曲園
 考〜おけ〜 竹人
 光陰と〜 織升
 算盤の表〜 花成
 之編の市〜 最顔
 や〜と〜 披久基
 かけ結の目内〜 糸屑
 か〜ま〜 東雄
 十二万〜 忠好
 ま〜 昌保
 降参の〜 國吉
 とりか〜 壽室
 心〜 春文

将基

一

十四

唇咄

溝歌

縁日話

挿花

身代もなれお基よその人も金うまれを歩阿らひ一つ 美、金 野人
 夜の夜よこせお棋の駒速ひ極もさあいたる有りせり 七九 秀丸
 時林の鳥一匹のとうさるるをかくてさし法入 十七年 万津雄
 うさこことさうて余の洗澤舟ん乃あうを扇し吹ふ 式次第 淳安
 八咫鳥轟くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 世より 百草園
 かく小人笑をせのきて来しをわしの種とさおとて 江七 真澄
 秋もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 川コエ 涼師亭
 甲越の車傍の溝歌よよく三寸の舌もまをり 高サナ 真垣
 まさこれさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 甲フ 森の屋
 ぐさうにさうさう軍に夜溝歌をさうさうさうさう 三、小川 歌和
 足さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 去赤木谷 真菅
 神とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 小山 直人
 池の坊あるい山姥お習とあのもうさうさうさう 春根 藤磨
 春根 春根

夏の夏の土をほよまればさうさうさうさうさう ナメキ 緑樹園
 る鹽よさうさうさうさうさうさうさうさう 兼名 真向
 けけさうさうさうさうさうさうさうさう ナメキ 蓮丸
 舟形の器よさうさうさうさうさうさうさう 相、重木 于瑠
 面なくさうさうさうさうさうさうさうさう 希、波賀 吉女
 たりさうさうさうさうさうさうさうさう トチ 菊也
 又たさうさうさうさうさうさうさうさう 小袋 昌保
 精細男の業なうさうさうさうさうさう 宗 是人
 床はさうさうさうさうさうさうさうさう ナメキ 湖丈
 さうさうさうさうさうさうさうさう 分 花照
 川舟の舟れのおやさうさうさうさう 居 幅器
 ふさうさうさうさうさうさうさうさう 下、小俣 駒成
 ゆさうさうさうさうさうさうさうさう 下、小俣 連山堂

画

有りててこころ牡丹の信ふは二粒もあまをとりて掛子口
 投入の者のまゝも凡あては信ふゆゑも床の作り舟
 車井の釣瓶形も急生よあをあげも床は川青
 床は男よおく之味線の糸掛紙一めりりと巻る生を
 ありけりも巻のまゝもあ枝は床の枝も這り
 十二相もあけり一巻のまゝもあ画一巻のまゝもあ
 百美人工もあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 一巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 掛物のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 花月まゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 隈もあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ

巻揚

交りも巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 枝のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 花月のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 隈のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 花月のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 隈のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 花月のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 隈のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ

朝寝

小屏風もあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 花月のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 隈のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ
 巻のまゝもあけり一巻のまゝもあ画の水もあ

二一代易

中十六

仲貫

四友齋

浦波

三十葱

義雄

可里安

秀作舎

稻持

蓬洲

鶴立園

秀九

胡丈

琵琶彦

琴通舎

壽々女

平道

乗房

苾菴園

緑樹園

喜足

和歌持

諸文

陰廣

宇都音

茂里住

商人

宇都音

仲寸寸

産磨

月又西さゆぬ枕乃山たうくの月も旭乃影も白つり
 芝居見よ草臥をく宿下りお森の故屋も行まつり
 一方に表さ只まうくと村井のあさ藤も志を一日のあま
 困る雨乃お存よ昔の人本とつらねをよのささる川
 言ふはまの噂狂るもまきにお舞して居るまゝの宿
 ねつえの鏡よまきまの鳥きけはぬるい命をうり
 めせおれまきまの房お枝をさそまきまのうねるまきまのさ
 どのおの志をひもいもほよま楊枝ゆるぬき代の葉産かき
 せかまも白し初日の入や袋の口をのめわのくそ
 うらむまも目さかてつらまのまお舞の枝のまも白し
 産磨の板お枝は楊枝もよろゆもまのふりを産磨
 楊枝地のまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの
 はらまのまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの
 起せくまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの

歌道

元枝

まきまの神よりゆく楊枝もまきまのまきまのまきまの
 産みかきまのまきまのまきまの産の白くおのま枝もかきまのまきまの
 おこまの産く娘をまきまのまきまのまきまのまきまの
 川ぬまのまきまの葉のまきまのまきまのまきまのまきまの
 昔の小唄まきまのまきまのまきまのまきまのまきまの
 産磨の産磨のまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの
 産磨の産磨のまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの
 をつらまの産磨のまきまのまきまのまきまのまきまの
 かきまの産磨のまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの
 名をまきまの産磨のまきまのまきまのまきまのまきまの
 そらおとく眉の産磨のまきまのまきまのまきまのまきまの
 不二の産磨の山の産磨のまきまのまきまのまきまのまきまの
 きのまきまの産磨のまきまのまきまのまきまのまきまの
 産磨の産磨のまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの

一代男

十七

安久樂

織弁

貞説

直喜

東雄

落霞

三常

此身

清住

峰照

真琴

花盛

琴種

浪韻

弘綱

長人

上鞠

都喜丸

千代也

真砂

緑樹園

龜住

未永

秀峯

龜代

万直

歌和

綾織

音雨

月玉をもてあそぶ力い名もろく一帯此中ある唐やといえん
エトサキ 鶴立園
 素内もよふ字とたのこて居まろよ名あつらぬるあつらぬる
川コエ 清女
 舞舟のそりあふ字もつねりあまきとて書居るあまき歌
 よと飛入かゝるあまの十字街すくたれあまきとて書居る
チン 清住
 後ひあふまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
チン 徳利
 和弄此傳あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
下東五左 津葉成
 うまひすれあむひしるふ女あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
キリ 生盛
 よりあふまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
上二又 綾繁
 天さるもまろく唐くあつらぬるあまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
上 民安
 老松の葉もひろくうごひくたをつけしは伝説の友
上 鶴立園
 重長
 八重橋うたよもあまき一節いあつまのあまき一節い
上 重堂
 時あふまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
上 梅里
 うまひすれあむひしるふ女あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
上 酒盛

浅湯

音羽山麓の浅湯の川岸に三つちのあまをひさるうごひ女
上七 四友齋
 あつらぬるあまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
川サキ 音こ
 糸竹のあつらぬるあまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
川サキ 櫻籬
 おのろくろくあまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
身延 福成
 子をさふあまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
身延 梅葉
 子あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
下廿三 萬流亭
 三の切たまひあまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
下廿三 影俊
 狗あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
タカノ 文舎
 三注をうごひくたをつけしは伝説の友
タカノ 便欄臺
 うまひすれあむひしるふ女あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
タカノ 菊泉
 心あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
京 宇壽女
 先あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
ナゴヤ 春久
 とくちうまひすれあむひしるふ女あまのあやをうごひくたをつけしは伝説の友
ナゴヤ 秀益
 直喜

一七男

二八

髪結床

初日⁺うけうるお日向に棟袋はくふく人の帯細^{日光}ほくく
 ころのち。湯⁺あもかききく七種の瓜もたさる凡^{日光}の鑑ひ
 三子⁺はれよむいもあつらせり信⁺の垢を為と柳⁺ゆふ
 女⁺の顔⁺のふりの帯細⁺うも初⁺日の凡⁺のぬま⁺湯⁺と
 多⁺あははしゆうの帯⁺あつとあふくませくもるせんゆ
 元⁺ゆひの帯⁺あつと通⁺うしゆわつとつらく結⁺よあ敷
 若⁺ちきりま⁺代⁺またいの帯⁺花⁺も筋⁺さうる根⁺よりのかこ
 青⁺柳⁺の帯⁺も風⁺もませりもる結⁺りき⁺襟⁺法⁺の本
 風⁺あつと仲⁺隣⁺もへりくと帯⁺の浪⁺考⁺とちうけ⁺髪⁺ゆひ
 うもさけふみ⁺れう⁺さうりま⁺柳⁺の帯⁺も結⁺る襟⁺らめ⁺の奈
 五⁺うけ二⁺時⁺さう結⁺体⁺く結⁺り起⁺りさる達⁺座⁺座
 玉⁺帯⁺さけのせ⁺あ⁺の奥⁺ほく⁺帯⁺のちうももるた⁺んこ⁺り
 た⁺ん⁺持⁺ちう⁺ち⁺ぬ⁺る⁺結⁺もあ⁺を⁺は⁺れ⁺か⁺巴⁺登⁺り⁺せ
 小⁺ま⁺ち⁺く⁺あ⁺の⁺を⁺較⁺り⁺ち⁺れ⁺る⁺林⁺の⁺名⁺や⁺負⁺せ⁺ん

たぐ持

帯物

後⁺は⁺ほ⁺た⁺え⁺ぬ⁺つ⁺の⁺の⁺ま⁺い⁺と⁺も⁺ら⁺ま⁺き⁺の⁺柔⁺り⁺て⁺く⁺も⁺り⁺も
 さ⁺あ⁺う⁺も⁺ま⁺は⁺つ⁺る⁺あ⁺と⁺ん⁺核⁺板⁺帯⁺又⁺そ⁺え⁺一⁺結⁺一⁺め⁺ち
 秋⁺ま⁺く⁺ま⁺模⁺楳⁺の⁺裂⁺を⁺と⁺り⁺ま⁺せ⁺と⁺核⁺板⁺帯⁺の⁺仕⁺互⁺う⁺つ⁺く⁺
 懐⁺入⁺き⁺く⁺め⁺ん⁺た⁺ぬ⁺紙⁺の⁺帯⁺も⁺や⁺り⁺白⁺氣⁺帯⁺一⁺や
 ち⁺ち⁺華⁺井⁺鞆⁺の⁺帯⁺も⁺む⁺ら⁺り⁺結⁺め⁺も⁺帯⁺の⁺帯⁺冊⁺鞆⁺珠
 ち⁺ち⁺の⁺け⁺ま⁺め⁺か⁺ん⁺り⁺け⁺山⁺も⁺も⁺核⁺の⁺皮⁺も⁺も⁺り⁺れ
 日⁺さ⁺り⁺あ⁺く⁺も⁺さ⁺ん⁺日⁺一⁺玉⁺帯⁺あ⁺つ⁺さ⁺う⁺く⁺め⁺も⁺も⁺り⁺あ⁺り
 伊⁺勢⁺ね⁺り⁺帯⁺物⁺も⁺針⁺も⁺も⁺て⁺完⁺る⁺か⁺の⁺い⁺り⁺も⁺も⁺ま⁺り
 た⁺を⁺入⁺仕⁺ま⁺り⁺の⁺の⁺廣⁺あ⁺よ⁺く⁺あ⁺れ⁺も⁺あ⁺り⁺や⁺む⁺め⁺ま⁺り⁺ま⁺り
 初⁺花⁺も⁺咲⁺ぬ⁺あ⁺り⁺の⁺帯⁺と⁺ん⁺帯⁺も⁺あ⁺ぬ⁺あ⁺の⁺む⁺見⁺あ⁺結⁺も
 ま⁺れ⁺日⁺も⁺承⁺一⁺と⁺さ⁺に⁺お⁺も⁺れ⁺ま⁺り⁺あ⁺ち⁺き⁺帯⁺の⁺帯⁺い
 山⁺系⁺登⁺の⁺柱⁺も⁺も⁺峰⁺の⁺む⁺る⁺を⁺根⁺ま⁺せ⁺ぬ⁺帯⁺と⁺そ⁺え⁺結⁺
 初⁺う⁺れ⁺を⁺袴⁺も⁺ま⁺り⁺の⁺山⁺志⁺一⁺い⁺帯⁺この⁺も⁺も⁺り⁺結⁺
 振⁺一⁺帯⁺あ⁺う⁺ぬ⁺も⁺も⁺り⁺を⁺て⁺い⁺の⁺あ⁺も⁺も⁺も⁺帯⁺も⁺帯⁺の⁺下⁺帯

- 菊英
- 藤雄
- 松日出
- 六和園
- 真向
- 雅樂守
- 鶴立園
- 六時園
- 掌
- 乾山人
- 唐歌
- 五十願の屋
- 萬流亭
- 唐歌

所々本山枝うらそこの夜及竹も乃雪名のまうらうらうら
 生枝の介もふ又のかうさうさうさうさうさうさうさうさう
 冬よりも喜此乃そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 吉野のも又のほの喜も破して風もまろい吹やまろい
 屏風板のあよりへ破れりうらうら風もまろい吹やまろい
 冬のもぬふきまろい日此もまろい風もまろい吹やまろい
 又又新んあま山のも盛りて雪解のほとやうらうら
 山くのもまろいて七日うらうらおやてあまもまろい
 冬のもぬ山まろいふ見此入おやまろいこれのかまろい
 初もれ命のまろいまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 破りてまろいてまろい破りてまろいまろいまろいまろい
 破りてまろいてまろい入おやまろいまろいまろいまろい

武女 一人 静丸 石竹 廣方 直成 仲義 桐齋 笑馬 玉樹 大陰 照蔭 鯉丸 松雄

嘆きの言又宿のうらそこの夜及竹も乃雪名のまうらうら
 さあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 本山も破れ車もまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 冬見よもせん桑道具を挽きまろいまろいまろいまろい
 冬盗むつらまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 上野の盛のまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 冬の人乃うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 嘆きの言又上野の舞高にまろいまろいまろいまろい
 破れ此あまもまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 冬女子も盛又まろいまろいまろいまろいまろいまろい
 冬もろもまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 冬もろもまろいまろいまろいまろいまろいまろい
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

諸香 紀詩丸 八重丸 盤面入道 哥語丸 松氣接 千代住 花芳 文車庵 寐顔 比丸志 船益 毛唐人

菟老

漕出くすのりき子をえれま 稚し伊の佐より乃岸 真垣
 深川ふ沈む手季も後鳥のたつとやけさむ菟老うめ 綴整亭
 春酒の指おつめ 瓜あま梅乃傍ゆろくさくくし女 水麻 長菜
 くら酒のふくろも洞は信くつあやふくさむい信くくし女 仙舟 一樹
 白粉よけもよ菟老のふし部もくらの上とたれくくし女 下止馬 登丸
 わそくこれ柳の橋よ生まきく眉も目もまも梅ふくくし女 江戸 緑樹園
 ぶくろくろくつけぬ菟老の三種もまけはくぬ密植棒くも 高草 芳雄
 かりく子の文字をふのれくくしくハ月の夜まきく外あまきん 行田 道守
 三歩路よのぬ家もくくくしてくく調子をあらけくくし女 廣俊
 洗ひ髪くくろあめの柳くくくくめけのせくく戸菟老くくめ 入坂 機守
 菟老の庭の橋よあ人乃ちくく菟老も 菟老色ちち 栗三
 ふけ香月れ雲もあむくく運まきくいせぬ 駒下駄の音 行田 藝雄
 凡そきねの月えく仲裏乃相感菟老を相 尾ふ屋 フレマ 内安
 三柱よはくくく一猫のちかきもくくく人あま菟老い

廊

三味せんの神よよのせくく中くく人のくくぬをひくくくし女 東金 笠守
 七人くくあめ味菟老の軒揚くくくく人くく巾まこれ 比左志
 新くくろくく出りのかひくくくく宵をくくちたくく門のま柳 信楽 照蔭
 けくくあま上野あまきくも及くくあまとのりふまむさくくあ 七ツヤ 玉器
 仇ありくくあまきくくくくあまのあまきくくくくく一系のみ せきや 是人
 小まきくくくくくあまの二取よけくくくくくくくくくくくく 三ノ 守真
 ぬり種くく花をくくくくして竹の町のさむ売くくあめ下船の音 ころ里 梅房
 けくく系い芳野の山とあま界をくくくくくく入相か ころ井 長喜
 伸乃所おのまこれい暖あくくあま核くくくあまと巾くくん 系清
 けくくくくお神の洞の雨くくくくあまのふを暖まあまい女 萩ノ 寐顔
 けくく系を柱くく核の下まもあまの核を控くくくあまのふふま 花垣
 けくくこれ女もくくくくくくあまのたけくくくくくくくく 德利

深川

勢懸いのよは消く仲の町はさるさるわく萩に... 村
うつし桂の原の桜もるる人の迷ひのまの根もやまらん
うくれ女はあつくあつてやつくうし... 扇窓のあ
まかき女もあつて送る祝もまうのちのち根もさるらん
あそひ女のたれよあまのちのちのち枕の山中まきく
あそひをあけのふきのきぬく... 弘磨
大門を醫師のふちのりこむ... 吐佛
仲の町は横乃をほされて向ふの人へかきもふれり
伝きさる... 龜住
あそひ女もあまのちのちのち... 真寸美
仲の町は... 市成
あそひのあつてさるる鳥もあつて... 竹也
秋も曾有... 津葉成
物もぬらぬとすれ... 綿芳

うちむく人のほろは海崎く相持持もるは伊志干路
されこそ海崎の海川より... 音信
年日まされまする仲の町はまの口をかき... 花垣
まき衣のあつて... 保利
梅もあつてうくれ尾もあつて... 高根
あそひの人のあつて... 千町庵
あつてふも伊の海川... 賤丸
舟人の舟もあつて... 直成
あつて秋のまのあつて... 一農屋
花もあつてあつて... 道義
あつてあつて... 歌和
あつてあつて... 弓守
たてまされ... 王兔園
松友

一六

中
三三

居續

土 青のこのつゝを... 廣後
 土 青のこのつゝを... 竹成
 土 青のこのつゝを... 京 玉免園
 土 青のこのつゝを... 小山 春里
 土 青のこのつゝを... 武蔵 春文
 土 青のこのつゝを... 武蔵 福壽窓
 土 青のこのつゝを... 笠松 東地
 土 青のこのつゝを... 甲 窪雄
 土 青のこのつゝを... 藤友
 土 青のこのつゝを... 六時園
 土 青のこのつゝを... 玉造 千町庵
 土 青のこのつゝを... 栃木 橋住
 土 青のこのつゝを... 岩沼 仲駐

朝帰

土 青のこのつゝを... 幸雄
 土 青のこのつゝを... 百有
 土 青のこのつゝを... 高サキ 東雄
 土 青のこのつゝを... 川口 萬流亭
 土 青のこのつゝを... 高サキ 松守
 土 青のこのつゝを... 高サキ 輦雄
 土 青のこのつゝを... 岩城 糸満
 土 青のこのつゝを... 岩城 庸善
 土 青のこのつゝを... カタラ 頼好
 土 青のこのつゝを... ミカエ 吉盛
 土 青のこのつゝを... 幸手 萬直
 土 青のこのつゝを... 幸手 廣方
 土 青のこのつゝを... 子代吉
 土 青のこのつゝを... 勇

妾宅

身請

陸をふむうきけ乃不何うううねとけう一具足も
 今さうまぢ〜〜食かひあ〜と暮とむらひていあをまき〜
 傾城よふ川と秋風まよふり親の心んのみあ〜〜
 身もそまむ母の心もあらうの情後てそたく具足も
 おの非のこれとも足えぬらまきけときえ人珠めも
 せん〜もま〜親のこも具足くゆ〜この男もたま〜せり
 いさめをい空ふ〜ゆとゆ〜男も〜志〜るも乃本枝
 具足も洞のるも書ある〜ゆの玉の親もやいある
 社む〜〜てかりぬき〜と〜ををま〜ねの〜あ〜せい
 あうあ〜て宿のゆせとををを降〜のあ〜さ〜の根を
 たたれ女の身請をか茂のう〜馬坊のあ〜〜か〜の〜出に
 々ふ〜り〜ゆせ〜〜〜みら〜の〜や〜う〜ねも〜代乃金
 血子大をよ〜師〜親の金吾乃何〜ま〜ぬ身請い
 色〜の〜ふ〜さん〜の〜お〜く〜ま〜と〜ま〜れぬふの〜頃宿とあれ

- 負益 初木
- 綾彦 下甘草
- 初國 下甘草
- 万亀 上甘草
- 繁根 モリ岡
- 善平 甲フ
- 花泉
- 守仲 下甘草
- 守弘 チブ
- 津葉成 眞花米
- 百條 フカヤ
- 糸成 和戸
- 蔓金 上毛名
- 守郎

女發佐

そ乃うまあぢぬ巨徳の山住もかう〜書〜せ〜不〜〜あ〜る
 我せこり末〜き〜音と希〜さ〜るのま〜〜〜〜〜てま〜からい女う宿
 か〜〜書ゆ〜〜ん人の位家とこりれ。冬を株とあ〜〜ん
 人ま〜ぬお宝の二書や〜い女もさ〜れ目をい〜ゆ庭の株こ〜
 八夜〜るは〜るさ〜く庭の〜の〜い書あ〜ゆ〜や〜佐と〜ゆ〜ぬあ〜り
 妻よま〜志のよの季ハ植込の目けよ志〜る。か〜い女うや〜
 ま〜のの〜親〜〜せぬ圃女ハ宝のふある。あ〜い〜
 加〜〜さ〜い好〜の風よを〜〜ま〜く金せか〜〜の女か〜ゆい
 せ〜ゆりもあ〜さ女のも節〜てあ〜〜〜〜ゆ〜も〜と〜る發佐
 泥あよ〜〜〜る〜の〜も〜ま〜さ〜掃〜あ〜れ〜れ〜る女か〜かひ
 むを〜も〜て〜〜〜〜上〜〜〜〜ゆ〜も〜垢のぬけ〜れ女髮ゆい
 梅む〜ゆゆ〜をつけて〜〜〜〜老も〜か〜き女か〜ゆい
 横は〜お〜く〜もの〜ま〜ま〜ぬま〜も〜た〜て〜す〜〜る女か〜ゆい
 よ〜の〜の〜か〜〜も〜ま〜さ〜ぬ夫も〜ま〜ま〜〜る女髮ゆい

- 千菊園 仙フ
- 鈴成
- 長住
- 雅樂守
- 舟唄
- 郭歩 カクシヤ
- 為種
- 梅住
- 舟唄
- 此身
- 吉成 サクラ
- 千幹 八日市
- 友成
- 文麗

羽猫

在清りふはうみ柳さへやちうく人よまをく女かみゆい
 さ清くのありこのまねく人もも子扇又月け。女うらな
 ち柳よわくねる月や黒かみをむまを世あつむう清い
 子弱女のむさひの角士は九曲の月かつうね女かみゆい
 利刀の破口もまをく子清りも人よ金をも。女うらな
 やさけまたたれて孫を枕書のことまをく人よまをく羽猫
 二階うら言見の座ねよほやまをく星何とつけ一室のかみ猫
 終せんまのまけまはまぬ羽猫もまをくまをくむまを
 三階よまをくれ一夏やむまをく一のかまをく一城の羽猫
 斤おまひまのいうてうけ日ころ跑見ももまをくぬまをく
 山の端は月の角もうられん小ねうけくまをく猫のまをく
 絶るまをくまをく午月角の新猫をいけとまをくて耳あまをく猫
 ち歌まをくまをくせくふまをくちや種まをくつて一帯の羽猫
 本ぬ果を結体。赤の孫まをく目りまをく時をまをく羽猫

蔵持
 仲澄
 初文
 琴音
 竹婦
 琴通舎
 長房
 魚丸
 綱彦
 桃太楼
 松人
 一鳳
 繁舎
 長秋

庭

植物

鳥うらまぬ子いさそふくむん鳥とよつね君のわい猫
 花ろち小鳥のうれよと木目の根を木の葉の毎かふふ
 枝とれ一庭のまをく又凡菊をうらまをく一庭まをく種垣
 泉水よ泊まの土の種まをくまをく一庭まをく庭の小つて
 梅いかそ梅いひらそこれこの例まをくはまをく梅まをく
 三子と世のまをくあひうらまをくせり梅と結体一梅まをく目ま
 これもまをく庭の骨まをくあひまをくまをく庭まをくうれ叶
 梅初一梅まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶
 葉は梅初まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶
 庭の向の菊まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶
 秀菊の庭まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶
 妻の庭まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶
 神庭の庭まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶
 よ一庭の庭まをくあひうらまをく梅まをくあひまをくうれ叶

為持
 徳利
 亀世
 梅一
 秀作舎
 正男
 小糸
 千梅園
 揚羽
 浅昇庵
 雅樂守
 友也
 雅樂守
 可蝶

一七

一七

酒

ままのふちありてあふもやううう一人ふまれとる門のま柳
 うらひまの色の秋葉のまあふいこのひの肉も白ふ梅うま
 曲うさる松葉の汁をさううふの釣よりねる庭のいけ垣
 さうあふふあふあ梅一かきさふたふとねあふとつてうう
 雲もかこのううふこのまねんううまかりう一酒の空をま
 子年経る勢の若後のまふ命をのめる菊酒をうむ
 そのわらわ人のんもたちまらふとて破軍の初りの酒
 絞まねくくをまのまこととらや梅は糸川と梅の味酒
 白梅の名もおひく新酒いりふ梅かまのまてあ
 法きせさるる若う新ひめなき酒は候かまのめつてあ
 諸釣のあまをさけふと梅子につくせうのまけまを酒
 名うーおふ中飯酒のま戸川のうと糸糸のま又出たり
 口あーのまは造りつ酒此名もあ糸糸をうう男山とく
 ゆううある代もも新まうく雪のあまもまうははうらと酒

浮亀 信業 弘方 花増 光家 集雀亭 吞安 万代 如蟻 干歳 袖成 置文 万流亭

と一酒をま買ふも三國一月よう白酒もふ一の山と
 花おま新まあうり酒のまあ友をま秋をさううう
 たう福のむいう一酒のあう香酒ま男とある友をまうう
 新まその細の猿ふにひ志ありはあまう人破ものちうつ
 ま秋のあまままこれ糸糸を新まううまもめんやのまけ
 糸見さけのりうまううて陣天儀あまうまは魚のこの糸
 糸糸をはまうぬあううもま酒ふんは登に掛ひまてとら
 糸のうけあまうやの心酒まうう後のまをまつ梅りぬる
 あううううううけ一酒のあははく造水の酒ち名も男山
 井よ梅一糖をまうはく心酒まあけとあうあ車空
 まくま一涙の酒もはあうま新まゆうう一酔く酒か
 糸糸をまさんまをうう交りを結ふも酒乃ちううううり
 ううあふのらうもあうまも吐いけは酒まうぬひの玉糸あれ
 口あふのまううううううううううううううううううう

雪向戸 満丸 栗三 舞鶴 睦頼 花友 干赫 歌良磨

一八

一八

看

立田山み空見きうく汲湯よまうれる下戸もあき夕たえ
 女房又歌をとりてせきあぐり一本木ある湯をうまうや
 ありぬ湯を一一わらまをさかたひてうううやうあて
 ありあてにまきるねや色をまて湯のまていあつさね下戸
 破とあてまといより墨田川よのゆりありやあ一一やと
 江戸へつむ伊丹の湯の碇つまねおまゆううん地してりり
 三む酒の流きまてしてはるう男の杖書をもあつる百川
 八多力筋の柳うけく取者葉あまれそめ一船のまてりり
 骨まてりのうろ指やさうう朝下戸あてのむりちりして
 八湯の湯をまてりりうけりもあてははまてりりけの舟
 八仇あま刀いこりまはの碇あてりり平湯のあてりり
 十約束の抄塵まてりりつてりりてに同あてりり
 むりはをうたさん秋のねもあてりりあてりり節あてりり
 海州ちくあてりり夕をうたあてりりあてりり同いりりりり

小福立 按摩

傍本

きく本一日教かてぬあはかてりりまてりりゆいをたけりり
 三去さうりまてりり一本のね切を茶のむもてりり地まてりり
 十るあ一人もあてりりまてりり画まてりりまてりりあてりり
 賃本にまてりりぬよの人を友とせりりまてりりぬあてりり
 枕まてりりまてりりあてりりあてりりあてりりあてりり
 八どのいりてまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 十よまてりりまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 三子まてりりまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 母親のまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 幼あてりりまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 十管れ親乃ふまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 幼あてりりまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 十そり夜いりりまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり
 つてりりまてりりまてりりまてりりまてりりまてりり

幼あ

- 友垣 下ノテ
- 玉彦 横、福原
- 披久基 五井六
- 千年 川サナ
- 浅楽庵 川サナ
- 房人 ユフイ
- 丸記 ユフイ
- 吉岡舎 甲フ
- 桑満 トキヤ
- 言の葉 在京
- 萬葉亭 在京
- 雅樂寺
- 頼好 イニメ
- 尋蹤亭 イニメ

而高よりとやせんと足限りし子より親の神とぬれん
 新内工より新架の友を助ありけり男のまぬけも
 望とある親をたもれて男ひとり志のいふ終るるも
 幼弟のくさき此女を親のまゝ食内むりしうまひて
 至とそ一女郎のまゝ工師あつて幼弟の男と今もあつ
 幼弟のあつたをまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ
 周とそくくくをまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ
 雨乃親の弟はよおのかり人こらうとふん咄をうき
 堂檀掉くまんの糸の糸はよかきまをまゝのまゝ
 まんぢうはよまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ
 ねんぢうはよまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ
 一寸の糸はよまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ
 まんぢうはよまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ
 陰奥のまゝとありし男の情淋し秋のゆふれ

四友齋
 槻堂
 安久樂
 桃木樓
 吉女
 真袖
 房人
 都曲園
 敷照
 橋住
 壽室
 景隆
 弓の屋

食妻 辛抱

侘言

茶業

旅行

有代のまきまゝも今さうに尻の尻も侘まをうき
 望のゆつりれ人の情をまゝゆつりのまゝを情ま
 尻まに掛りまれと並座をいあも今もまける商人
 身をまけた骨を粉うて茶の業まゝもあつてまげ屋
 茶業はまゝも手取車水車 情のかりせよ 送ね 合帳
 情の情もあつて陸奥の茶をまゝとつむ 友之屋
 針の目も初まをうきまゝとつむ 友之屋
 鬼をうき安達、系を商人も今も子孫まゝとつむ
 茶外もぬけしと化とまゝとつむ 友之屋
 松をうき月工老も面をうきとつむ 友之屋
 口をうき汗をうきとつむ 友之屋
 松をうきまゝとつむ 友之屋
 一のけあつてとつむ 友之屋
 杉田を松足りしとつむ 友之屋

元照
 歌和
 歌雄
 百州園
 歌和
 藤啓
 松友
 春好
 仲好
 亀住
 阿佛
 小松
 萩の屋
 真前

女とら旅舞のやの力を男とあれとおもふと一太
 橋 足とたると一舟の旅かまされと白く系帯の鞘
 息杖もろを根と一てまきり 糸帯の山をこゆるを助
 鴨杖をむらぶよとひのき旅しまあくとるもひらふとこさ
 八月の朝を志のる山阿の西のまき人 味一とらり
 若々月の月をうりてり旅を法蘭ととるまき一とら
 古の妻をぬりい金帯のまきり枕もあまかひま
 お換物や七玉此後も八百りりこちを砂工のりり
 多賀講をたぬる旅も月やけてる摺まき金細のあと
 巡り来一巻巻ととらの名おを麻まきり 旅乃おあ
 立のちる物おや雪の白ゆまをまきり山留士乃ゆき
 る響もとらりいさき一旅人を口車まきりまきり 宿川
 旅人も坊も金細やとり出ん 神一とらの 然る宿
 馬こまのりて歩りをたのりまの旅まきりまきりまきり

大 春住
 オシ 数雄
 但、生、 桃太樓
 ニラキ 廣方
 トキキ 宇都音
 トキキ 連成
 シラガ 友呼
 下毛大道 守弘
 三ノ木 十代の屋
 クハナ 歌雄
 武小用 保利
 武小用 万丸
 土井小高 四友斎
 二葉

伊勢詣

子秋秋もここ藤の大屋や月のころ一男義うま 月 成
 りるの妻をこまてやふも 麻毛の帯をぬり 秋 旅
 新とや層もまきりゆき旅へきり田法り 門出の湯
 乃むら又神のぬれり 旅の空かりぬ友と月いれり
 降とまきり噴りりもみと親と法をまきり 旅を物まき
 伊勢詣旅籠も人も古市の志の洞まきり 龍の屋
 代旅籠をまきりまきり 舟渡の法をまきり いせのまきり
 あまこり一秋とぬけてるまきりぬあまの山へ家へまきり
 糸帯の旅もまきりまきりぬとちりせれ伊勢の神風
 まきりまきり法はけはけのまきりまきりまきりまきり
 君り代やその旅籠の杖とまきり 舟此旅の神をかきりまきり
 若とまの法もまきりけの伊勢詣ひりまきりぬまきりまきり
 日の神の志法もまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 おまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

チラ上 栗
 受フ 園住
 七車 真津丸
 大坂 露玉
 オヤ 龍の屋
 屋、生、 咲雪
 ナガラ 上喜
 モリ間 滝門
 サノ 音好
 三ノ木 和歌持
 シラガ 花友
 シラガ 重喜

因基

夜と昼のつらさをかき入つた月を送る老いこの〜め
子所田は海と鳥の集ふ女かこ〜基の白馬の石
多や木のふらも子宮かこむ基の石も目とつまむ乃宿
斧は柄乃柄ぬと怪老のつらきぬうさまされて因む基の友
因む基のせさもやうれん友はよあけやしくきて新う〜ゆり
斧は柄にあらぬと今をまきうりにきを打碎く因基のたのき
因む基よ死ぬるも大空をたう〜所のわけうとして〜れ
愛か〜こまれとせせ〜る〜基をた〜る〜の〜名とや〜ん
身はうき風をぬ〜約をよれ〜う〜らぬ魚のうき〜ん〜れ
約字をかきつけて〜る〜夕ぐれの〜言も〜る〜こ〜乃〜汗
大切なれと我もよ〜る〜抱屋敷をわ〜り〜相續
〜料のた〜る〜土地の券ま〜る〜今〜つ〜き〜ふ〜
親のた〜る〜債や〜る〜持〜う〜ぬ〜大思〜ら
〜地乃〜る〜け〜ふ〜さ〜け〜さ〜つ〜ま〜の〜梅の〜り〜と

- 梅之 田ノリ
- 梅雄 モリ明
- 日九世 イセ津
- 与鳳亭 ユフキ
- 長住 京
- 數照 千ノ
- 連山堂 千海
- 桂 花マキ
- 花頼 京
- 華廼屋 京
- 田鶴雄 京
- 与鳳亭 高サキ
- 壽室 高サキ
- 紅 高サキ

約

お督お後

婚行

婚行のあ〜り梅も花は山女ま〜る〜床のさ〜つ〜さ
 まめ〜る〜ら〜つ〜け〜あ〜れ〜は〜は〜の〜ゆ〜か〜る〜ま〜る〜
 妻を何〜れ〜ぬ〜の〜上〜に〜ま〜と〜あ〜さ〜む〜く〜娘の白む〜
 妻の身〜の〜こ〜い〜形〜を〜せ〜も〜ま〜の〜や〜ら〜る〜ま〜れ〜む〜あ
 婚れを喜〜さ〜な〜ら〜れ〜一〜柄〜ろ〜柳〜も〜あ〜さ〜あ〜さ〜月〜り
 酒は名の考ねやま〜く〜幾〜代〜と〜ら〜ぬ〜池子の口も落葉
 幾子とせ後〜る〜お〜乃〜む〜む〜ま〜も〜柄〜く〜ま〜や〜女〜ま〜ま〜持
 こ〜か〜ら〜い〜女〜を〜の〜池子のぬり〜は〜あ〜き〜縁〜を〜む〜ま〜娘〜れ
 破りのを好むを〜る〜の〜大〜り〜や〜や〜ら〜る〜瘦子のた〜る〜れ〜も
 う〜し〜ま〜の〜味〜を〜ら〜る〜る〜ま〜る〜玉のや〜ら〜る〜子〜ら〜る〜ら〜ら
 まの凡起も男の子のま〜る〜ま〜る〜と〜い〜ふ〜あ〜さ〜さ〜い〜つ
 初ま〜い〜や〜か〜や〜く〜む〜ま〜れ〜ら〜玉のや〜ら〜る〜ま〜る〜ら〜ら
 老の身もか〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 う〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

- 梅門
- 東雲
- 舟唄
- 幸雄 身延
- 庫業
- 瑞生
- 泉彌
- 歌和 東金
- 秀作舎 東金
- 春秋庵 京
- 大極堂 京
- 數照 今
- 玉兔園 下馬心
- 雉子 下馬心

つらつてみきや強よつとくく玉のやうあるものを儲けて

玉うけ二入とあり一春をうけ天此にうける地をまね

やもくとわ子のうまれ一返しにかもけ人も春をわけける

よりわけて春もまゑとよくく人かまをゆく玉の初孫

子にあの凡起させてちのたり園庭の楽限長せり

ことりあるわのよほものかられあを母のまを志すぬ老より

まゐの志のよ老をやちのあゆるあのみ乃かそいけ

孫うまと枝にあまよほは此本のりやつとくまあかん

をよほはさるさつとぬたうき師のあゆあゆの凡やうう

まゑとくあゆむねまは来て子代のやとことうあゆま

孫うまこ室此山の中よやくとをまゑとくあゆま老らく

この室をまゑ合のむとまゑとくこの室はつとくやさのえつ

子孫もあゆむ若のむとくと歡え一まおろ古とのま

我子代もあゆむ人危もせのうまぬわのまゑとくい

モリ岡

甲フ

ツルカ

高サキ

手枕

真澄

田一

天年

武野

槐

ツルガ

錦流

吹居

玉成

繁根

ツルカ

弓の屋

チツ

春喜

ツル

松

目出度春

古方棚 春のたねふけまゑとくあつとくは空のふらと初ま

いこり目出度とまゑとくあつとくは空のふらと初ま

をよほとくあつとくは空のふらと初ま

はれる法代とまゑとくあつとくは空のふらと初ま

若らくもろあまゑとくあつとくは空のふらと初ま

ゆさ年比治とまゑとくあつとくは空のふらと初ま

とくあつとくは空のふらと初ま

ツルガ

弓の屋

相生

毒龜

桑サキ

紅

サツラ

藤長

東金

稲見

サツラ

綾織

梅屋



170

11

